

塾 先 生 奮 闘 記

アグリーを探せ

文&イラスト 学生記者 関いづみ(文学部3年)



塾講師になって最初に担当したクラスが1Bだった。アルバイト先は個人経営のひっそりとした集団塾で、小学生数人と中学生の各学年AとB両クラスを講師3人が担当している。

1Bはよく言うと、ほぼ全員が非常に活発。言い方を変えるとサファリパークのようだ。教室に入ると、いすに座っているのが2人、いすに立っているのが1人、机の上が3人、床に寝ころんでいるのが1人。残る1人は見当たらない。私はカーテンの異常なふくらみに目をやりため息をついた。

なめられた

塾で唯一のバイト講師であり女性講師。小柄で童顔。年齢はほかの先生に比べて格段に生徒と近い。なめられる条件としてはピカイチの優良物件である。

おまけに1Bはつい先月までランドセルを背負った6年生。それを、ついこの間まで高校生だった私が教える。どっちも不恰好で、うまくいかない。

毎日苦戦していた。授業を全く聞いてくれない。こっぴどくガミガミ言うとやっとこさ前を向くが、目が死んでいる。何も聞いていない。これでは何を教えても意味がない。そして数分経つとまた騒ぎ出す。

男の子は、私より背が高く、そして力があつた。がむしゃらに怒ったって、怖くはないことぐらい分かっていた。でも怒るほか術がない、と思っていた。

「すてない・たべない・なくさない」彼らに渡すプリントの上には毎回必ずこれを書いた。さもないと渡した紙類は①鞆の中で宝の地図みたいにシワシワになる②変に折れ曲がって化石となる③魔法としか思えないくらい瞬時に跡形もなく消える—このいずれかをたどることになる。

冒険家と発掘家と魔術師を、一度に8人も受け持つことになって、ただただ途方に暮れていた。

授業が終わると、なんとかしなければと思い、事務作業をしながら他の先生の授業を聞いた。楽しそうな笑い声が聞こえた。悔しかった。羨ましかった。「なんで?」。さぼっているつもりはなかった。なめられるのは覚悟の上だった。だが

ら、他の先生の2倍3倍、準備に力を入れていた。

でも事前準備なんて、この子たちを前にするとあっさり崩れ落ちる。「なんで？ 私はちゃんと、やっているのに」思い通りにならない生徒に、思い通りにできない自分に、イラついて怒ってばかりいた。教室の空気が重い。

ほかの先生のクラスに響く笑い声が、私の教室では聞こえなかった。授業も下手だし、怒ってばかりだし、嫌われているんだ、きっと。いつも勝手にすねていた。

注目のホワイトボード

もう、やめてしまおうか。そんなふうに、すっかりむくれた夏前のある日、ホワイトボードに赤いマーカーで挑戦状が書かれていた。

「アグリーを探せ!!」

アグリーと言うのは、「賛成」の「agree」である。何かのテキストに書かれていて意味を教えたのだが、響きが面白かったのか生徒たちがそのときから何かと、「アグリー!」と叫ぶようになった。

「いい、わかった?」「アグリー!!」

「じゃあ次説明するからね」「アグリィー!!」

「be動詞っていうのはまず…」「アグリィィィー!!!」と
いった具合である。



「何これ??」

ホワイトボードを見つめ、生徒に向き直って言った。

「先生!アグリーが隠してあんの!探して!」

「え?」

宝探しの要領である。さすが冒険家。まず手に取った出席ボードを裏返しにしてみた。見つけた、紙切れにガタガタ文字で「agre」と書いてある。「e」が一つ足りない。

「みっけー。あと何個?」

「くそお!あと7つ!!」

ああ、一人一つ隠したのか。冒険家だけが残念そうな顔して、あとのみんなはなんだか緊張したような様子である。しかしどこに隠したかは視線で大体見当がついた。「ここでしょーあと…ここと……」

あと一つ。ここか。窓の淵。ほらやっぱり。紙の切れ端が細かく折りたたまれている。

「はいラストみっけたー」

しかし、開いてみるとそこにはガタガタ文字で『はずれーん』

「うわ!はずれかよ!!!」

あっさり引っかけた私を、みんなが笑った。私もつられて笑ってしまった。

ああ、また制御できなくなる。咄嗟にそう思いもした。でもなんだか、みんなで笑っているのは心地よかった。

バカにされている、そう言われたらそれで片付いてしまうと思う。でも、この日、紙切れのほかに大事なことを見つけた。

準備はきちんとやっていた。けれども関わろうとしていなかった。ものを伝えるためには、そのプロセスよりも、伝えるための人間関係を、構築することこそ大切なのだと思う。

それなのに、伝えなきゃ、教えなきゃ、気持ちばかりが焦って、いつも一方通行だった。ちゃんとやっているつもりで、大事なことが、ちゃんとできていなかった。

本当はみんなと仲よくなりたかった。生徒たちも同じ気持ちだったのかもしれない。「もっと話そう、伝えるために、まずは仲よくしなくちゃ」

8つ目の「アグリー」がどこに隠してあったのか、知らないままだ。あれから1Bはちょっとずつまとまって、彼らは成績に苦戦しながらも2Bになり、この春ついに3Bになった。

こしは就職活動をしながら、3Bの受験を引っ張る。お互いに困難は多い。けれども9人みんな、笑って頑張っていく。

